

市長所信表明

令和8年留萌市議会第1回定例会

I はじめに

II 4つの願い

III 「6つの約束」を通じた未来への道筋

- 1 医療のある市（まち）に住みたい
- 2 るもい・ラブで生きる
- 3 過疎でも経済成長
- 4 一人ひとりの人生を大切にする
- 5 ステージ（社会的共通資本）を充実
- 6 燃える行政経営

IV 結びに（共に歩む未来）

I はじめに

令和8年第1回留萌市議会定例会の開会にあたり、私の市政執行に臨む所信の一端を申し上げ、市議会議員の皆様はじめ、市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

私は、去る2月の市長選挙におきまして、多くの市民の皆様から温かいご支援を賜り、市長に就任いたしました。皆様の期待の大きさを思うとき、その責務の重さに、改めて身の引き締まる思いでございます。

これから、市政運営の指針を申し上げるに先立ちまして、これまで8年間にわたり、困難な情勢の中で市政の舵取りを担われ、本市の発展にご尽力されました前市長の中西俊司氏に対し、心からの敬意と感謝の意を表したいと存じます。

さて、いま留萌は過疎という大きな課題に直面しています。この課題を一朝一夕に解決できる特効薬はありませんが、私たちは決して立ち止まってはなりません。そのためには、外部の力にのみ頼るのではなく、私たち自らの手で、この街の「地域力」を信じて立ち上がらなければなりません。たとえ一度でうまくいかなくとも、失敗を恐れず、あきらめない。その不屈の歩みこそが、留萌の明日を形作ると私は確信しております。

私は、留萌で生まれ育ち、市役所で34年間市政を担ったという経験を活かし、生涯を通じて市民の皆様が「ここで暮らしてよかった」と笑顔で振り返ることができる。そんな「幸せのステージ」を、皆様と共に創り上げてまいります。

そのために、市議会議員の皆様と前向きな議論を尽くし、経済界をはじめ、各界の皆様ともしっかりと手を携え、市民の皆様の信頼に応えられるよう、誠実に、そして、情熱を持って正々堂々と市政運営に取り組んでまいります。

Ⅱ 4つの願い

私は、市政に対する「4つの願い」を基本的な理念に掲げ、これから政策を進めてまいりたいと考えております。

<市民ファーストで、愛し愛されるまち>

第一に、「市民ファーストで、愛し愛される街」であることです。

市民の皆様のお一人おひとりが「市政に見守られている」という安心感を抱けるよう、強固な信頼関係を築いてまいります。

<市民みんながオープンに話し合う>

第二に、「市民みんながオープンに話し合う」ことです。

政策の意思決定において、市民との信頼を基礎に情報を共有し、多様な声に真摯に向き合うことで、誰もが主体的に市政に参画できるよう、努めてまいります。

<税金をみんなのために使う>

第三に、「税金をみんなのために使う」ことです。

市民の皆様から託された、かけがえのない財源は、市民全体の幸せという「公共の利益」のために投じ、未来の留萌のために最大限に活かしてまいります。

<留萌らしい明日を創る>

第四に、「留萌らしい明日を創る」ことです。

先人が築いた歴史や風土を礎として、社会の変化に柔軟に立ち向かい、新たな可能性へと変え、未来を切り拓く価値の創造を求めてまいります。

これら4つの願いを具現化するための原動力は、活力ある「経済」、支え合う「コミュニティ」、そして、それらを力強く支える「市役所」という3つのセクターが、互いに信頼し、深く連携することにあります。

この4つの願いを判断基準として、私に課せられた使命を全うし、市民の皆様との対話を重ねながら、将来にわたって留萌に住み続けたいと誰もが誇れる未来像を、共に描いてまいりたいと考えております。

Ⅲ 「6つの約束」を通じた未来への道筋

それでは、市民の皆様に掲げた「6つの約束」に基づき、具体的な施策の方向性を述べさせていただきます。

1 医療のある市（まち）に住みたい

第一に、「医療のある街に住みたい」この願いに応えることをございます。

地域医療の維持こそは、市民生活で何よりも優先されるべき「安心の土台」です。そのため、医療人材を確実に確保し、スタッフがやりがいを持って働ける環境を整えるとともに、二次医療圏内の医療機関との連携を深め、将来にわたって市民が安心して医療を受けられる体制づくりに努めてまいります。

2 るもい・ラヴで生きる

次に、街の活力の源泉となる「市民相互のつながり」についてでございます。

街の活力は、市民一人ひとりの自由なコミュニティ活動から生まれるものです。町内会やボランティア活動を支える仕組みのさらなる充実を図り、自立した市民活動を後押ししてまいります。

また、本市出身者の芸術・文化・スポーツ分野での活躍を讃え、子どもたちが留萌に誇りを持ち、「あとに続いていこう」という希望を持てる、郷土愛に満ちた環境づくりに努めてまいります。

3 過疎でも経済成長

続きまして、「地域経済の成長と循環」についてです。

過疎に打ち勝つためには、自立した筋肉質で柔軟な地域経済を目指すことが不可欠です。失敗を恐れず果敢に挑戦する地元の企業をしっかりと支え、官民が知恵を出し合う研究・実証の場を設けながら産業の競争力を強化し、地域経済の黒字化と市内経済の循環を生み出し、着実な「経済成長」の軌道を描いてまいります。

4 一人ひとりの人生を大切にす

四つ目に、「多様性を尊重する市政」についてです。

私は、市民の皆様が主役になれる街、「誰一人取りこぼさない街」を目指しております。

性別や年齢、障がいの有無、そして生まれ育った環境にかかわらず、市民一人ひとりが自分らしく輝ける地域社会を願い、それに寄り添う相談体制を充実させ、市民相互の理解が深まるよう、努めてまいります。

5 ステージ（社会的共通資本）を充実

五つ目は、生活や産業の基盤となる「インフラの充実」についてです。

市民生活や産業活動の土台となるインフラ整備は、財政計画に基づき、計画的に進めてまいります。

また、経営的な視点を持ちつつ、適正な施設管理に努め、無駄を省きながらも、除雪の効率化やごみ処理の負担軽減など、日常の「不便」を解消してまいります。あわせて、ハザードマップ等の客観的なデータを活用し、災害に対して市民が安心して暮らせる街づくりを進めてまいります。

6 燃える行政経営

六つ目に、「経営感覚をもった行政運営」について申し上げます。

行政運営に経営感覚を組み入れ、客観的なデータに基づいて、最小の経費で最大の効果を図り、市民の幸福度、満足度が高まるような行政運営に努めてまいります。

以上の6つの約束を果たすとともに、「持続可能な発展」という視点を常に持ちながら、道の駅の整備や再生可能エネルギーとGXの取組を通じて、地域経済の活性化や地球環境への貢献を進めてまいります。

また、ふるさと納税による貴重な財源を丁寧に活用するほか、DXの推進で行政事務の効率化やデジタル社会にふさわしい組織文化の醸成に努めてまいります。

IV 結びに（共に歩む未来）

「ここに住んで幸せになろう」。

この言葉は、私のスローガンであるとともに、市民の皆様への誓約であります。

市政とは、単に予算を執行することではありません。この街に住む市民お一人おひとりの「願い」を、一つひとつ形にしていくプロセスだと考えます。

私の役割は、市民の皆様が主役となって、笑顔で過ごすための「ステージ」を支える「プロデューサー」に徹することです。同時に、個々の職員が能力を最大限に発揮し、効果と成果を求めて政策を組み立て、生き生きと仕事ができる組織をマネジメントするトップリーダーとしての責務も果たしてまいります。

この先、過疎化が進み、人口が減っていったとしても、誰ひとり取りこぼすことなく、世代を超えてみんなが「豊かで」「健康で」「笑顔で」留萌で暮らしていく、そういう街を共に創っていきましょう。

議員各位、並びに市民の皆様の格段のご理解とご協力を心からお願い申し上げまして、私の所信といたします。

令和8年3月19日

留萌市長 益田克己